

明治三十八年二月分

戦時日誌

軍艦三笠

機関部記事抜

0087

二月十日

晴及曇 区々風力一上 吳軍港

午前十時十分

大尉奥飛水雷三個十四時水雷一個ヲ積入

十一時十分

善行軍行状陸級申渡

午前九時頃

微雨午後一時十分止

午後四時十分

四等水兵端舟漕方純音古

二月十一日

晴 北東風力一 吳軍港

午前八時

外艦塗方ヲ行

十時

フロリダグレートヒヨク隊備「スル」及「リスボータ」

一本ヲ陸揚ス

十一時十分

「シナ」ロ「ビ」チ「ス」及第三「カ」チ「シ」修理成リ受領

午後一時十分

水雷防禦受取

0088

退艦 軍医中監 西御棟 乘艦 同 草野復人

二月三日

晴

区々風力一

吳軍港

午前九時

十一時

水雷防禦網取付方ヲ去
右了ル試ニ展張ヲ去

二月四日

晴

区々風力一

吳軍港

午前八時

午後二時

午後三時

石炭搭載ヲ始ム

三時迄细雨降ル

試發射用彈藥ヲ取込ム

0089

六時五分 石炭搭載ヲ止リ
七百九噸 和炭

海

110

0090

聯合艦隊司令第七號

海軍省
海軍大臣

東海聯合艦隊司令長官

侍從武官長 東宮武官長 末禮 七日 光九 末着

一 警二 付 當日 各 艦 三 警 泊 三 日 艦 長 馳 返 艦 長

ヲ 除 三 日 及 司 令 武 官 長 末 禮 三 先 三 警 三 參 集 三 日

追 三 參 集 三 時 刻 三 更 三 信 号 三 三 令 三 不

了

海

第

0091

二月九日

半晴及驟風雨

西南西、西及西北風力二

吳軍港

午前七時五分 英炭搭載ヲ始ム

午後〇時五分 陸上砲ヲ第三回開塞隊就死者ヲ葬儀

施行ニ付半艇上陸會葬セシム

二時五分 石炭積方了ル

三時四十分 警備隊機関試運轉シテ結果良好

此日陸上ヲ修理中機関生四基ヲ受取リ船抵信

号ノ装備工ノ下ド撤去ニ付新ボヲ行フ

海

記

0092

乙隊機密第六六號

訓令

明治三十八年六月九日
経路増設機艦出雲

一 本職陸軍築城團人員及材料ヲ搭載ス汽船陸盛丸ヲ
松田清ニ護送スル為出雲常盤丸春日須磨・龍雷ヲ
率ヒ明二月六日午前十時出発ス

二 在港先任指揮官ハ常ニ出羽司令官ト通信連絡ヲ保持シ
浦攻艦隊南下線ヲ速カニ之ニ進ム準備アルヲ要ス

三 駆逐隊水雷艦隊集令其一隻ヲ加徳水道ニ出シ湾ヲ封海
面対シ警戒及監視ノ任ニ當ラシムルハシ

四 在港機艦毎夜山城本北方及並山列岨ノ水道上
在リ警戒戒ス

火用意ヲナシ置ス

0093

二月廿日 晴 午前西

第二艦隊司令長官上村虎上

午前北西、風力三

北緯三十四度七分半秒

東經一百三十五度五分半秒

午前九時五分 降雪

六時 右止

九時 公試験委員乗艦ス

九時五分 出港用意浮標ノ曳ニ起動

九時四十分 土海軍ノ速力トス

十時 尾形石ノ立標見似島水道ニ到

十時五分 羽沙差水道通過

十時三十分 土海軍ノ速力試験ヲ行フ阿島田島甲

島標程間(三哩九三三)往復面

0094

善
〇時 午後

右了ん

二時

十五海里對る速力試験ヲ始ム

三時

右了ん

三時 午後

重軽四七密砲及五六十四十五十六番十二

斤砲公試發射ヲ去

五時 午後

裝備發射結了

六時

甲島南方於テ復泊ス之レ明朝發射留

右旋回砲公試發射ヲ去カ高ナリ

位置 甲島東端 北々東 西東

全 頂克 北々西 西

全 西端 北々西 西

水深十四尋半底泥 錫鎖四節半

六時 午後 標海燈ヲ免シ甲島ヲ標的幕的建ヲ方

0095

八時五分 右了ん
行ヒレム

二月七日

晴

西南西より北西ノ風カニ

甲島南方

十一時

五分

后部主砲台試射命中試験ヲ大発射

彈數大發命中普通ノ巨弾九百米突此間

水中射発管ノ内筒發射試験ヲ行フ

十一時五分

公試發射中止

午後四時

出港用意次ニ艦ヲ運轉シ標的(幕的)ヲ

千米突ノ巨弾ニ於テ停止ス大発射公試命

中試験ヲ行フ

一時五分

右開始

0096

一時四分 右中止風、為艦標的向、1能航、え

次艦運轉、再、前位置、来

二時十分 命中、發射、再、始

右結了、次、陸上、諸物、取入

二時五分 前進、起、小黒神島、近傍、於、傳止、

甲島標的、上、后部、十二、手、砲、發射、始、

巨、真、一、万、千、音、次、一、万、千、六、百、十、リ

次、ラ、最大、仰角、ヲ、使、ハ、ラ、發射、ス、巨、真、一、万、千

二、百、音、何、レ、砲、ニ、故障、ナ、シ

前進、ヲ、起、シ、宮島水道、通過

六時七分 宮島沖、に、艦、錨、ヲ、投、ス

位置、小、那、沙、美、燈、台

聖崎

南、東、西、東
西南、西、南

0097

九時

水深
公計

射委
退艦

七尋
感泥

二月八日

晴

北西ノ風力二三

北緯三十四度十分半
東經百五十五度三十分

前八時五分 出港用意

八時九分 前進ヲ起シ 自善修整ヲス

十時五分 右ノ直ニ 那沙美見張信ヲス

似島水道ヲ経テ 吳ニ向テ

午後一時十分 Bニ浮標ニ繫索出ス

三時十分 石炭搭載ヲ始ム (人夫之)

0098

九時五分

右より

前後の砲撃及びボート発進、十二斤砲以下、
楫ヲ取外シ揚陸ス

二月九日

晴 北西及西風力一二

吳軍港

午前七時五分
午後一時五分

少シク雪降ル直ニ止

總員后甲板に集合后甲板に砲臺ヲ設ケ
昨午有る以来本艦に死者忠魂ヲ祭ル
之ニ第一回旅順口外海戦ノ記念日ナルヨリ
艦長奈文朗讀ヲシ遺族其他司令長官
以下順次参拜

三時五分

司令長官本艦外ニ第一回旅順口海

0099

執託念ノ小宴ヲ張ラシ末客有命及

二月十日

午前曇

午後晴

西ノ風カ〇一

本日ヨリ本艦ノ諸修理完成ス修理ノ箇所
別紙目録アリ

吳軍港

二月十日

晴

区々ノ風カ一

吳軍港

午前八時〇分滿艦飾ヲ去

九時四十分隊員檢位置ニ整列遙探式ヲ行フ

准士官以上并帶勳下士率隊員影ヲ採ス

0100

十時五分 總員后甲板集合 恩賜品付艦長

披露アリ

十時五分 恩賜、菓子煙草ヲ總員、領ッ

十時五分 二十一分、皇礼砲ヲ放ッ

此日分隊長海軍大尉村越八郎及中機関士
午九時作乗艦

二月十日 晴 午前西風力二午後区々風力一

吳軍港

此日比岡中尉、有馬中尉、田中少尉

山内少尉、末飛直士、退艦

0101

二月十日 日曜 午前曇 午後晴 区風力一

吳軍港

午前 日課手入并 雑業
午後 雑業

二月十四日 火曜 晴 区風力〇より一

自吳至江田島

午前九時 出港

十時 午前 江田島湾 投錨

午後四時 半船 上陸 兵學校 見學 セシム

一時十五分 有栖川 若宮 殿下 御來 艦 次 兵學校

0102

生徒統復来艦后甲板より東郷長官伺候暫く
退艦
四時十五分 龙松直復上陸兵學校見學セル

二月十五日 水曜 晴 区々風力一ヨリ二

七時五分 出港兵學校生徒対シ登艦禮式ヲ支
自江田島至佐世保

九時五分 自差測定ヲ始メ一時間余ニテ終了

午后〇時五分 三列水道通過ス

五時 總員艦内配置ヲ讀聞ス

五時五分 鞆田操練次ヲ水雷艇防索操練

六時五分 艦内二直哨兵配置

七時十五分 右操練ヲ止メ解散
 本日釣床ノ乾キ水線下修理ノ部並食器大消毒ヲ行フ
 海軍少佐加藤寛治 海軍大士計加藤亮一退艦
 正午 艦位 〃カノ水道

二月十日 木曜 新西風方ニテ四時晴北西風方四時七

午前 洗濯及中下甲板掃除石炭酸ヲ消毒
 午後 日課手入 雜業
 四時五分 水兵部總員ニ救助艇及鞆ヲ準備シ完
 副長ノ説明アリ
 六時四分 四直哨兵配備

0104

正午艦位 北緯三度半東方廿度至百廿度廿八分

二月十七日 金曜 午前晴 北西風力五 午後晴 区々風力一

佐々保着

午前九時 予分 三番浮標 繫角

九時 予分 較島 鏝身府長官 礼砲 志氣 対之 五発

各礼ヲ為ス

十時 予分 石炭 搭載 兵員ノ手迄

午後二時 予分 右終了

海軍中主計 中島 藤次 乘艦

海

部

0105

第一戰隊日令第一號

三十八年二月十七日
於佐世保港三笠

東郷第一艦隊司令長官

一 第一戰隊艦隊區分ヲ左ノ通リ定ム

〔第一小隊〕(一)三笠(司令長官旗艦) (二)朝日

〔第二小隊〕(三)日進(司令官旗艦) (四)春日

〔第三小隊〕(五)富士 (六)敷島

本區分及艦船番號ハ更ニ變更ノ令花道固有トス

又司令官旗艦ハ時宜ニ依リ敷島ニ變更セトス

ニ龍田ノ固有番號ヲセシ編隊航行中特令アルノ外晝間ハ二番艦ノ

左舷着ハ右舷正横四百米突ニ右位シ日没後ハ殿後ニ列トス又

艦隊運動中ハ信辨ノ度ニ任スルモノトス

ニ龍田ハ戰隊ノ當直勤務ヲ免ス

(了)

海軍

聯隊法令第六號

水雷母艦 日光丸

右第九、第十四、第十九艇隊、母艦 タラシム

同 春日丸

右第一、第五、第十、第十五艇隊、母艦 タラシム

同 熊野丸

右第十六、第十七、第二十二艇隊及竹敷艇隊 (艇隊ト協同テ行動スル聯合限ル) 母艦

タラシム

明治三十八年二月十七日

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海

第

0107

二十日 土曜 新晴 北西風力一 午後晴 北風力一

佐世保軍港

午前 洗濯 日課 手入

午後 平舷上陸 在舷員水雷防禦網取換方

海軍少尉 高辻廣長 今福井義房 退艦

二十一日 日曜 曇 午前東風力一 午後西風力一

佐世保軍港

午前 マシトレ以上 製り方 水雷防禦網取付方

午後 平舷上陸 在舷水雷部 マシトレ以上 製り方

生糧品搭載 防禦網収入方

0108

二月二十日 月曜 晴 北西風力二三

自佐藤至鎮海港

午前 日課及雜業

午後一時四十分 出港

二時八分 合款準備九分間ニシテ整備

二時三十分 英汽船カイルビヤ達号前橋頭ニ我軍艦旗ヲ

掲揚シ右舷ヲ及航スルニ遇フ

二時五十分 自差測定ヲ始メ約二時同ニ終了

三時廿五分 日光丸拿捕英船一隻ヲ率ヒテ左舷ヲ及航ス

四時五十分 火災操練

五時四十分 溺者救助操練

七時 八直哨兵ヲ配備ス

0109

海軍上等械園兵曹 若松有吉退艦

二月五日 火曜 午前曇 北西風力二 三時晴 西風力一

續海況着

午前九時甲務 右舷錐ヲ投下ス

全 洗濯 日課手入

午後

右舷側防備網取換ニ次テ麻張試驗終リ
傳着旧防備網ヲ中部甲板以上張ル

七時 八直哨兵配備

艦位

佐不里岩
釜島東端

北東 北東 北東 水深土岸半感變沈
北々東 北東

鎖鎖五節

0111

聯合艦隊日令第二號

三十九年二月廿一日
於鎮海灣 三笠

東郷聯合艦隊司令長官

(一) 各艦ハ毎夜ハ直哨兵ヲ置キ敬言戒スル水雷防備網ハ展張スル及ス

(二) 汽罐ハ消火シ至急矣火用意ヲ為シ置クニ但汽罐式汽罐ヲ有

スル艦ハ十竹郎ニ對スル汽罐ヲ埋火(無汽壓)ニ置クヲ要ス

(三) 各戰隊ノ當直艦ハ午前九時及午後三時其當直艇ヲ旗艦ニ望ニ

差出スル

(四) 艦載水雷艇ヲ有スル第一戰隊ノ各艦ハ電信局交通ノ用トシテ

艦艇番號順序ニ其一隻ヲ旗艦ニ望ニ差出スルニ但シ交

代時間ハ午三時ハ時トス

(五) 出雲、秋津洲、音羽、千代田、須磨石、千早ハ第二艦隊司令

長官ノ指示ヲ受ケテ當直勤務ニ服スル

六 灣口ノ哨戒ニ關シテハ何分ノ令アルマテハ隊機密第六號

上村第一艦隊司令官訓令其儘
艦用ス

0113

二月三日 水曜 晴 北西風力一

鎮海湾

午前八時五分 右舷側外筒砲射撃

九時四分 艦長徳真訓示云其要領別紙如左

十時五分 敵陣操練 信号兵信号指示

十時五分 右舷側外筒砲射撃 当直雜業

午後一時十分 防水操練 防水幕出シ方

一時五分 右舷側外筒砲射撃

二時 雜業 左舷側外筒砲射撃

五時十分 砲員巨栗自側指示

七時 八直哨兵配置

海

軍

0114

事業に於て尤も迅速に力も緻密に尤も確實たるものあり。殊に
極度部砲塔、事業に於て尤も衛生勤務、上官に對する敬禮の
特に嚴尤あり。

三、兵士世保懨至甲、兼員が不良、疾病に冒され、一甚かりし船長とて

大に満足ならぬ。國家多務、此際、事多し、延衛生に留意し

兼員一月、心事に對して謝す。後事も亦益々自衛に努む。石炭

船横附季ノ場合、於てモ、味とテ、其水ヲ飲用スルハ、如キテ、アルコト

四、當砲台甲、余令に依り、八分一哨兵ヲ以テ警戒ス。燈火、見張、檣

械、運轉等ノ周りに、依り、如ク充分ナル注意ヲ要ス。

0116

二月二十日

木曜

晴

区風力

鎮海屋

午前

内筒砲射撃並雜業

午後

総員身体検査内筒砲射撃並雜業

五時

砲員巨砲目倒練習

海

軍

0117

第一戰隊日令第二號

三十八年二月廿三日
於鎮海灣三笠

東郷第一艦隊司令長官

二三笠、朝日、敷島ハ明廿四日午五時九時編隊シテ尾崎灣ニ向テ
出發ス其航行速力、舵角等左ノ如シ

(原速)九節(半速)六節(イ速)四節(舵角)二十度

二来ル廿七日午尾崎灣ヲ抜シテ當地ニ歸港スル豫定ナリ

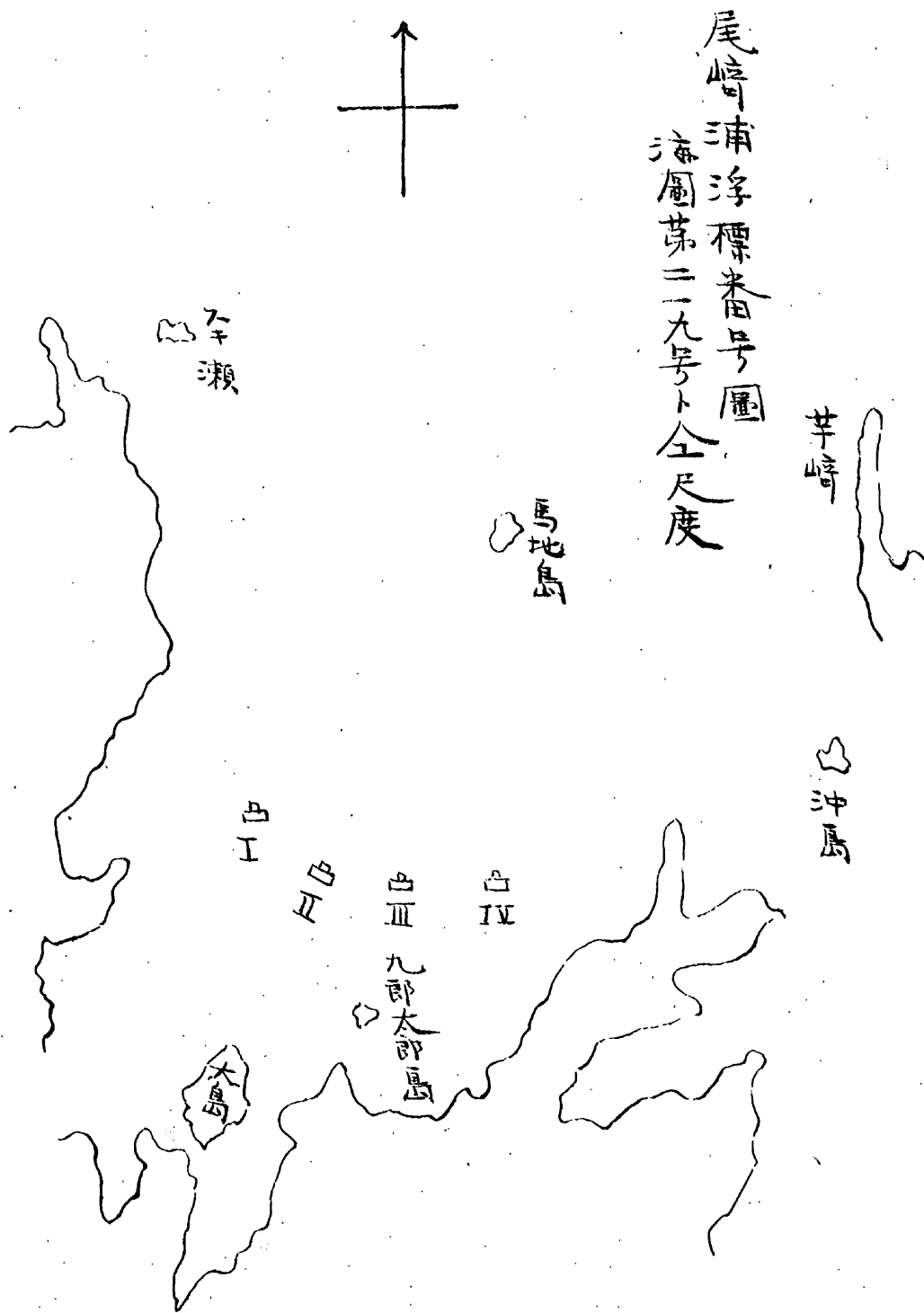
三尾崎灣泊中各艦ハ天候ノ異変ニ對シ常ニ原速ニ對スル速カラ

保蓄スル

四尾崎灣ニ碇置シアル浮標位置及番號左圖ノ如シ

(終)

0118



尾崎浦浮標番号圖
海圖第三九号ト全尺度

草崎

沖島

馬地島

下千瀬

白 I

白 II

白 III
九郎太郎島

白 IV

大島

0119

二月三日 金曜 晴 午前正風 午後東北風 力 三

鎮海灣

午前九時

出港 尾崎灣 向 航 行 序 列 三 隻 朝 日
敷島 運送 船 和歌浦丸

十時五分 所 水 底 閉 鎖 掃 練

十時十分 右 終 了

十時四十分 内 筒 砲 射 擊 暫 時 止

十時五十分 某 艦 隊 長 官 指 揮 下 入 出 港 三 隻 出 港

春 日 富士 千 草 出 港 三 隻 登 陸

礼 式 行 和 歌 浦 丸 單 獨 先 發 七 公

午後一時 内 筒 砲 射 擊 重 雜 業

四時四十分 尾 崎 灣 内 第 二 番 浮 標 擊 毀 出

七時 八 直 哨 兵 配 備

0120

正午 艦位 北緯三十四度 東經百三十五度五分

百三十五 土曜 風雨 北東風力三ノリ

尾崎湾

午前九時 五分 風力増勢 天候險惡 慮り左舷鉤ヲ投下ス

午後一時

日課手入 雑業
総買込屋令廿七年十有現在傷病者対シ
御下賜品ヲ授與セリ 此 艦長 訓示アリ 其
要領別紙ノ如シ

一時五分

雑業

五時五分

天候險惡 爲 浮標ヲ曳シ 左舷鉤ヲ上ゲ

六時

左舷鉤ヲ投下ス

0121

七時

八直哨兵取備旗信依碇泊燈ヲ出ス

沖島東之南之南

繼位

茅崎北東之東之東

馬和島北之西

水深三寸寸底質泥沙

海

軍

0122

37

二月廿五日 艦長刻布

徳員

北對州尾崎浦

一 今渡之タハ畏ラズ

天皇陛下ガ客臘疾病ニ為シテ憶マカレタル者ニ對シテ特ニ

下ニ賜ヒテ慰問ノ旨料ナリ

陛下ガ斯ク也ニ吾等ガ事ヲ顧シサセテ忝キ

御意ヲ辨レシ一國ニ益々健全ニ愈々奮勵セザン可キ

二 准士官以上一刻布

令報南洋ニ派遣セシニ特務艦隊中練習艦ト字ノミタシニ各艦ヲ候補

生ノ業組マシテ可ク命ヲ受ケタリ、是ガ為メ本官ニ特ニ先ニ順序ニ申リ

且名ヲ擧出シ亞末利加丸ニ業組マレル事トテ、蓋シ南洋航海ノ事ナル

至難ノ業タルト共ニ又裨益ニ可モ數カ弁レ可ク且ツ本官由來ノ志意ガ

候補生中幸序ノ者リテ可及的速ニ艦務ニ馴レシヲ日露干戈相見ニ以

際ノ実務ニ於テ一其精熟ノ者ト寸毫ノ差異無カニシテ在レバナリ

三 亞末利加丸ニ業組可ク候補生ニ規律ニ勵修シ充分奮勵ヲ為シテ敢テ三笠ノ

名ヲ浮ツリ勿レ本艦ニ残留スベキ者、指導官以下ノ命導ヒ見學シ艦務ヲ習熟スル

海軍

二月二十七日 日曜 風雨 新東風力甚大北東風力二
尾出寄港

新
午後 日課平入 后休憩
休業

一時十分 旗信 依明日午前九時已地莫向ヶ出港
原速十深人命了

海軍少尉候補生 堀橋吉 玉木信助 后藤誠雄
山崎巖萬 吉田秋成 臨時重利加丸乗込者直艦

二月二十七日 月曜 新東風力甚大北西風力三多一
自尾出寄港至鑄海灣

新九時 出港航行序列 三空朝日 敷島

勤 九 奉

七 時

八 直 哨 兵 配 備

艦 位

加 治 島 百 十 呎 及 南 東 各 東 各 東

五 呎 岩

正 南

水 深 十 尋 底 質 泥

珠 川 島 北 端 右 側 南 西 各 南

正 午 艦 位 北 緯 三 十 四 度 四 十 一 分 半 東 經 百 三 十 八 度 五 十 九 分 半

海

軍

0126

聯合艦隊日令第四號

三十八年二月廿七日
於下地吳三笠

東郷聯合艦隊司令長官

一 C地 錨泊位置別圖、如ク定ム

二 C地 錨泊港ニ入港スル艦船特令ナケレハ別圖所定位置ニ碇泊スレ

三 電信局ハ甚中丸ニ開カスル豫定ナリ

四 自今出灰水糧食ハ甚中丸艦隊附属港務部ニ要求スレ

五 氣象信號、運送船ノ發着ハ甚中丸ニテ信號セシム

(終)

海

軍

0127

二月二十日 火曜 晴 北風 一三三

鎮海灣

午前九時

石炭橋載開始

十時四分

右終了 橋載量二百噸

午後一時四分

洗濯 次 甲板洗方

四時四分

巨岸目側練習

七時

八直哨兵配備

海

軍

0128

明治三十年二月戰時衛生日誌

前日受診患者 三十三名 内休業 六名

二十八年年度治療品 呉海軍病院治療品庫より領

収

前日受診患者 三十一名 内休業 六名

軍醫中監 西郷棟平 艦軍醫長 補 着任

三等水兵 山崎吉松 呉海軍病院入院 終日昇

鶴海兵團(送籍)

前日受診患者 三十五名 内休業 六名

従僕 樋渡宗俊 佐世保海軍病院入院中

慶全 治 帰艦

一等水兵 菊地由五郎 外一名 呉海軍病院入

送院 二日 昇 鶴海兵團(送籍)

毎 日

四等機關兵柴田貞藏外九名乗艦ス

同日 受診患者三十二名内休業五名

軍醫中監草野復人佐世保水雷團向ク

浪艦ス

一等看護手竹内市太郎乗艦ス

一等水兵菊地由五郎三條八員傷證書其

筋(提出ス)

羊船上陸許可セラルルヲ上陸人員ノ疾病檢

査施行セシ処麻痺患者三名陰莖糜爛見ル

二名ヲ發見ス

二月九日 受診患者三十九名内休業五名

羊船上陸許可セラルルヲ上陸人員ノ疾病檢

査施行セシ処麻痺患者一名ヲ發見ス

0130

前日受診患者 四十八名内休業九名

試運轉：公試發射：自差修正、午前九時

甲島沖へ向ふ出港ス

一等水兵、岡崎源次郎外十一名、関元疾病要緊

領収ス

前日 受診患者 四十七名内休業十名

前日 受診患者 五十二名内休業八名

午後一時呉へ入港ス

九龍前部飲料水外ニシテ蒸気消毒施行ス

一等兵曹新井春治即旗艦増加員トシテ乗艦ス

割烹一本吉加市解備

二月九日 受診患者五十三名内休業九名

大機関士足立重徳金剛へ向ふ退艦ス

一等機関兵松浦典吉外七名舞鶴海軍
向島艦

従僕 田中秀雄解備

百日 受診患者 四十九名内休業十名

半船上陸許可と見立以上陸人負傷疾病檢

査施行せし處麻疹患者一名夜見不

百日 受診患者 四十六名内休業九名

午前九時早五分紀元節違拝式施行

第三種症患者一名送院上旬呉海軍病院へ

豫報

三等軍樂生加瀬順太郎旗艦増加員トシ

乗艦

二等軍樂手廣瀬稜雄呉海軍團向島退

0132

艦又

羊船陸許可也云々以上陸人員ノ疾病検査
施行セシニ發見患者ナシ

有言受診患者 四十七名内休業 四名

二等水兵桑原茂一外一名水雷術練習所ノ
入所ノ良艦ノ令時ノ疾病要略ヲ送付ス

一等水兵池田良助等三種症ヲ以テ海軍
病院ニ送付ス

大山千代雄送僕ノ命セリ休業艦ス

石井浪藏旗艦割烹ノ命セリ休業艦ス

右艦後部飲料水列ニシテ蒸気消毒ヲ施行ス

有言 受診患者 四十八名内休業五名

剃髪 寺田忠太郎外一名解備ス

解 巨

0133

款益喜氏越外若刺夫採用

寶川作次郎給仕採用

二月廿一日 受診患者 四十八名内休業七名

午前九時吳出港江田島向合十時半

投錨下

二月廿二日 受診患者 四十三名内休業八名

海軍少佐加藤寛治大主計加藤亮一

退艦下

午前八時佐世保へ向ふ出港下

下士卒総員八名署に蒸気消毒を施し又食

器棚に石炭酸水消毒を施行す

二月廿三日 受診患者 四十一名内休業七名

艦内大掃除及び石炭酸水消毒を施行す

0134

九龍後部飲料水外多蒸氣消毒不

有七名受診患者 四十名由休業二名

午前九時佐世保へ入港す

海軍中主計中島三郎夫妻乗艦す

一等兵曹新井春治郎外一名人々疾病要

略領収す

赤色酸比求外五品佐世保海軍病院送る

領収す

有七名受診患者 四十五名内休業四名

総員釣床洗濯乾燥晒す

海軍少尉高辻廣長全福井義房良

艦す

半船上陸許可せし以上陸人員五名病

録 四

検査に施行せし處麻疾患者四名を發見し
食塩水注射器外一具を佐世深海軍病院
に領収す

前音 受診患者 四十六名の内休業六名

上等機関兵曹若松晋吉機関術練習
所へ向退艦す

羊船上陸許可せらるる以上陸人員麻病
検査施行せしところ發見患者七名

前音 受診患者 五十二名の内休業七名

午後一時羊鎮海灣へ向出港す

前音 受診患者 六十一名の内休業七名

午前九時鎮海灣へ投錨す

消毒用唧筒二具を海軍病院に領収す

二日書 受診患者 八十一名 中休業七名
 午前戰術操練施行 負傷者運搬員
 故多之法ヲ教授ス
 二日書 受診患者 八十五名 中休業七名
 下士卒能負之疾病檢査施行ス 察見患
 者十二名
 三等信號兵片山木之助外三名 人ノ疾病
 要略領収ス
 一等兵曹清水乙吉 係父負傷證書其
 簡ヲ提出ス
 一等車樂手小池磐吾外一名 軍艦出立云々
 白々良艦云々
 一等車樂手河野定之助外一名 軍艦入

解
 正

自晉 受診患者 九十四名 内休業十三名
 午前九時尾崎湾より出港ス
 軍樂部員三故急法教授ス
 三等信號兵 伊藤重栄外三名乗艦ス
 第九号飲料水のシロシロ蒸気消毒ヲ施行ス
 自晉 受診患者 八十六名 内休業五名
 軍樂部員三故急法教授ス
 自晉 受診患者 八十八名 内休業八名
 海軍少尉候補生堀梯吉外四名 亞米利加丸
 乗組員 中上 長艦ス
 二等信號兵 金若山 藏舞鶴海兵團 中
 長艦ス
 示機関兵 田島 弥太郎 外一名 佐世保海

0138

軍病院へ送院し即日舞鶴海兵團へ送給

ス

風雨に爆ヤレ過勞せし兵員百名、衛生酒ヲ

給與ス

直毛首

受診患者八十七名、休業八名

午前九時鐘海濱へ自出港午後四時投

錨ス

軍医副員一救急法ヲ教授ス

直毛首

受診患者七十九名、休業六名

毎

日

0139

乗員移動

二月一日

海軍大佐伊地知及次郎海軍機関大監平部貞一海軍中佐上野晃海軍少佐加藤寛治一月三日附以三笠公試本島員命セラル

二月二日

海軍軍医中監西郷棟一月二十七日附以本艦軍医長補セシ佐世保水雷団ヨリ本日乗艦三等水兵山崎吉松呉海軍病院へ入院中、所本日舞鶴海兵団へ送籍

二月三日

司令長官從僕樋渡宗俊昨日佐世保海軍病院退院本日帰艦又第一艦隊附海軍少尉長谷川徹也一月廿七日附以本艦ヲ免シ三笠乗組仰付之四等機長兵柴田貞藏外九名及三等水兵中野新一郎外二名本日舞鶴海兵団ヨリ

乗艦ス

二月四日

本艦軍医長海軍軍医中監草野復人一月二十七日附ヲ
以テ佐世保水雷同軍医長ニ補セシ本日退艦一等看護手
竹内太郎舞鶴敷設隊ヨリ本日乗艦

二月五日

一等水兵天谷常雄横須賀海兵團八回多本日退艦一等
看護手崎田正吉河郎舞鶴水雷同軍勤ヲ命レ本日
退艦

二月八日

一等兵曹新井春治郎第一艦隊司令長官旗艦増加員
トシテ横須賀海兵團ヨリ本日乗艦割烹一本嘉市願依
リ本日解傭ス

0142

二月九日

一等中隊副長松浦與吉外七名定員超過ヨリ舞鶴海兵
團三入団ヲ命ジ本日退艦セシム海軍中隊副長後藤兼三本
艦分隊長心得被仰付竹敷要港部ヨリ本日乗艦三以立
分隊長海軍大佐廣士足立重徳二月八日附以テ金剛中
隊隊長兼分隊長ニ補セシ本日退艦從僕田中秀雄願
依リ解傭ス

二月十日

二等軍舟生加藤順太郎第一艦隊司令長官旗艦增加
員トシテ横須賀海兵團ヨリ本日乗艦

二月十一日

二等軍舟手廣瀬被雄定員超過ヨリ呉海兵團八入団命
本日退艦分隊長海軍大尉村越八郎及七中隊副長牛丸福

作本日乘艦ス

二月十三日

石井浪藏之弟艦隊司令長官旗艦割自命之命之大公令代
雄之從僕又命之三等水兵池田良助弟二種座ヨリ其海軍病
院へ入院セシム

二月十三日

二等水兵東原茂一外一名水雷術練習所へ入所ノ命本日
退艦セシム 刺夫寺田忠太郎合磯田政藏ヲ解傭ス実川作
次郎ニ給仕ノ命ニ歡益喜代 掘高山竹松ニ各刺夫ヲ命
ス

二月十四日

海軍中佐上野晃ニ三等航海長ヲ免シ香港九副長ニ海軍少
佐加藤寛治ニ三等砲術長ヲ免シ海軍省副官兼海軍

大臣秘書官補セシ海軍大計加藤亮一ハ三ノ五ノ乗組免セシ
吹雪乗組仰付シ海軍少尉高辻廣長三ノ五ノ乗組免セシ朝
野仰付シ海軍少尉福井義房ハ三ノ五ノ乗組免セシ中ノ五ノ乗組
仰付シレ(以上二月十三日)本日傳達ス

二月十五日

海軍少佐加藤寛治同大計加藤亮一本日退艦ス

二月十七日

三等機関兵谷所福一郎二月十三日帰艦ス其儘帰艦セシ
發艦遅刻付舞鶴海兵団へ送藉ス海軍中計中島康
夫須磨ヨリ乗艦ス

二月十八日

海軍少尉高辻廣長今福井義房本日退艦

二月十九日

二等機関兵曹下越龍吉練習継続爲本日退艦
機関術練習所へ入所セム
生麵包 週間分生牛肉及生野菜各三週間分格載ス

二月二十日

上等機関兵曹若松麻呂吉機関術練習所教員ヲ命セ
之本日退艦

二月二十日

四等水兵小牧義我秋外一名舞鶴海兵團ヨリ本日乗艦

二月二十日

一等軍兵宇山池樺五三等軍兵生吉田善丸第三艦隊
司令長官旗艦増加員トシテ本日退艦一等軍兵宇山河野
定之助二等軍兵宇山渡邊祐藏第一艦隊司令長官旗
艦増加員トシテ本日乗艦

戰時給與規則施行細則第十條より本日朝食より白米
壹割生麴包生獸島魚肉生野菜三本行三割増給
ヲ行フ

二月二十四日

三等信託兵伊藤重栄同片山木之助舟鶴海兵團より
本日乗艦

二月二十五日

一等松岡兵田邊英太郎一等松岡兵叔山三平第三種
庄より佐世保海軍病院入院セリ即時舟鶴海兵團ニ送籍
ス三等信託兵金谷爲藏之員超過ス舟鶴海兵團ハ
入國ラ申シ本日退艦セリ
海軍少尉候補生堀悌吉今玉木信助今後藤誠雄
今山崎殿亀今吉田秋成臨時重米利加丸乗艦命セリ

本日退船

0148

明治三十七年自由艦管需品消耗品受入高

品

数量

枚

測量修理試験乗取票

百

枚

糞揚

箆

貳拾

枚

何

龜甲

箆

拾六

枚

何

玉揚

箆

六

枚

何

飯杓

子大

五

枚

本

盆

小

七

拾

本

米揚

箆

拾

枚

何

新

四

百

把

0151

三十八年二月中貯蔵品変化高

品名数

量

事

品

魚肉

七八六四九〇

呉米 九〇八七〇
在糧科 五二六〇
運船福丸 五〇〇〇

茶

五五〇〇〇

在糧科

海軍

0153

三年二月中貯藏品給與高

量

計

事

品名	乾麴	貯藏肉	塩肉	白米	割麦	豆	麦粉	茶	焙麦	三水	元光糖
教	七〇六八	四八八〇	七五七〇	七六九〇	七六九〇	四〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	九六〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇
量	七〇六八	四八八〇	七五七〇	七六九〇	七六九〇	四〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	九六〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇
計	七〇六八	四八八〇	七五七〇	七六九〇	七六九〇	四〇〇〇	七〇〇〇	七〇〇〇	九六〇〇	七〇〇〇	八〇〇〇

0154

醬油	胡油	凝脂	火酒
七石參斗四升七合	八斗五升	貳貳貳六〇	吉斗六升六合

0155

三十八年二月中生糧品変化高

品名数量

率

品名	数	量	率
生麵	志四〇八	四九五	志六五五
骨付生牛肉	志九	志五九〇	志五八九四〇
骨付生魚肉	志七	志五〇	志四〇〇
生野菜	志八	志七〇〇	志四九四〇
雑	志〇	志〇〇〇	志〇〇〇
左存糧科			志六六〇

海軍

0156

三拾八年二月中生糧品給與高

品名数量

記

事

品名
生麵包
壹貳拾八
貳貳六

骨付生牛肉
壹五六九
七貳〇

骨付生魚肉
參參貳
五貳〇

生野菜
貳四九
壹八〇

雞
貳貳
〇四〇

海軍

0157